(財)財務会計基準機構会員 JASDAQ

平成21年3月期 第1四半期決算短信

平成20年8月6日

上場会社名　フィールズ株式会社　　上場取引所　JQ
コード番号　2767　URL　http://www.fields.biz/
代表者　（役職名）代表取締役社長　（氏名）大屋　高志
問合せ先責任者　（役職名）執行役員社長室長兼IR・広報室長　（氏名）畑中　英昭　TEL　03-5784-2111
四半期報告書提出予定日　平成20年8月12日

（百万円未満切捨て）

1. 平成21年3月期第1四半期の連結業績（平成20年4月1日～平成20年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

（%表示は対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
21年3月期第1四半期	7,321	—	△3,312	—	△3,161	—	△2,289	—
20年3月期第1四半期	24,234	△4.4	2,322	△26.9	2,627	△23.0	1,156	△30.3

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
21年3月期第1四半期	△6,596.99	—
20年3月期第1四半期	3,333.14	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
21年3月期第1四半期	64,272	43,391	65.2	120,839.58
20年3月期	69,168	46,331	64.3	128,201.49

（参考）自己資本　21年3月期第1四半期　41,931百万円　　20年3月期　44,485百万円

2. 配当の状況

	1株当たり配当金				
（基準日）	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	年間
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
20年3月期	—	2,000.00	—	2,500.00	4,500.00
21年3月期	—	———	———	———	———
21年3月期（予想）	———	2,000.00	—	2,500.00	4,500.00

（注）配当予想の当四半期における修正の有無　無

3. 平成21年3月期の連結業績予想（平成20年4月1日～平成21年3月31日）

（%表示は通期は対前期、第2四半期連結累計期間は対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期連結累計期間	37,000	△42.8	2,500	△68.0	2,500	△66.5	700	△77.3	2,017.29
通期	75,000	△26.3	10,000	△24.0	10,000	△14.6	5,300	0.1	15,273.78

（注）連結業績予想数値の当四半期における修正の有無　無

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）　無

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用　有
（注）詳細は、6ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更（四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されるもの）
① 会計基準等の改正に伴う変更　有
② ①以外の変更　無
（注）詳細は、6ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。

(4) 発行済株式数（普通株式）
① 期末発行済株式数（自己株式を含む）　21年3月期第1四半期 347,000株　20年3月期 347,000株
② 期末自己株式数　21年3月期第1四半期 —株　20年3月期 —株
③ 期中平均株式数（四半期連結累計期間）　21年3月期第1四半期 347,000株　20年3月期第1四半期 347,000株

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他の特記事項
（1）平成20年5月14日発表の連結業績予想の修正は行っておりません。上記の予想は、本資料の発表日において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。
（2）当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第12号）及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第14号）を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

・定性的情報・財務諸表等

1.　連結経営成績に関する定性的情報

(1) 当第1四半期連結会計期間（以下、当第1四半期）の概況

当社は、従来から市場環境の変化を予測し、独立系最大手の流通企業としての強みであるマーケティング力やファブレス企業として培った企画力を活かして、ゲーム性、エンタテインメント性に優れた商品の企画・開発を鋭意進めており、その中でもデジタルコンテンツの重要性を企業競争優位性構築の基盤と捉え、パチンコ・パチスロ分野で活用できるエンタテインメント性の高い版権（商品化権）や新たな顧客層を創造するコンテンツの取得・創出・育成を目指して幅広いエンタテインメント分野に進出しています。

さらに、こうした取り組みを踏まえ、10年後のあるべき姿の実現と持続的成長を目指した中期経営計画を当連結会計年度（以下、当期）よりスタートさせ、各分野で戦略的かつ積極的な事業展開を推進しています。

パチンコ・パチスロ分野とのシナジーの最大化に向けて展開するゲーム、スポーツ、映像、アニメ、モバイルなどの各分野においては、パチンコ・パチスロ遊技機での商品化を目指し、注目度の高い優良なコンテンツの獲得・創出に向けた施策を強化するとともに、下半期に主軸を置いた計画の達成に向けた施策に取り組み、概ね想定通りに推移いたしました。

一方、パチンコ・パチスロ分野においては、昨年の新規則対応パチスロ遊技機への完全移行に伴う入替需要からのパチスロ遊技機市場の規模縮小に加え、本年6月から7月中旬にかけての洞爺湖サミット開催に伴う入替自粛期間等もあり、期初より当第1四半期の業績は厳しく見ておりましたが、若干想定を上回り推移いたしました。

また、第2四半期（７－9月期）にパチンコ遊技機では新機軸タイトル第一弾である「CR七人の侍」、パチスロ遊技機では大型人気タイトルの最新作「新世紀エヴァンゲリオン～約束の時～」をそれぞれ投入予定であり、当第1四半期においては、これら大型商品の展開に備えた取り組みを強化いたしました。

この結果、当第１四半期の連結業績は、売上高7,321百万円、営業損失3,312百万円、経常損失3,161百万円、四半期純損失2,289百万円となりました。

なお、当第1四半期においては、匿名組合投資利益等として特別利益95百万円、子会社において発生した倉庫火災による損失等として特別損失107百万円を計上しています。

(2) 当第1四半期の事業の種類別セグメント分析

① ＰＳ・フィールド

遊技機産業を取り巻く市場環境は、大きな変革期を迎えています。全国のパチンコホールにおいては、昨年、旧規則対応パチスロ遊技機が新規則対応パチスロ遊技機に完全移行しました。この影響等を受けて、ホールの営業主体がパチンコ遊技機にシフトしています。

こうした中、ホールでは、新たなファン層の掘り起こしに向けて、エンタテインメント性豊かなパチンコ遊技機の導入や低貸玉営業、景品の充実などの様々な経営努力をする一方、遊技機導入に対する選定評価が厳しくなっており、優れたコンテンツを搭載したパチンコ遊技機のみが大量に導入される傾向が顕著になり、かつその遊技機がホール収益の柱となっています。

メーカーにおいては、従来のような多品種投入の販売戦略を転換し、投入機種を絞り込み、企画・開発に時間をかけ創りこんだ遊技機を投入するような傾向に進んでおり、有力なコンテンツの獲得と、企画・開発力強化が優勝劣敗を左右する環境になっています。

当第１四半期のパチンコ・パチスロ遊技機販売事業においては、平成20年7月に開催された洞爺湖サミットへ配慮した入替自粛期間があったものの、パチンコ遊技機販売事業においては、前連結会計年度（以下、前期）に発売した「CR新世紀エヴァンゲリオン～使徒、再び～」が高稼働を受けて一部当第１四半期販売となったほか、5月に発売した「CRA新世紀エヴァンゲリオン プレミアムモデル」が市場から高

い評価を頂き、低射幸性（いわゆる“遊パチ”）の商品としては大型ヒットとなる、累計5万台以上の販売を記録するなど順調に推移し、総販売台数は53,237台となりました。あわせて、当第1四半期には、新機軸タイトルの第一弾となる「CR七人の侍」の第2四半期販売に向けた施策を強化しました。

一方、パチスロ遊技機販売事業においては、前期販売の「天下無敵！サラリーマン金太郎」の継続販売に加え、5月には「ソニックライブ」を発売し、総販売台数は5,360台となりました。

以上の結果、ＰＳ・フィールドの売上高は4,197百万円、営業損失は1,562百万円となりました。

② ゲーム・フィールド

ＰＳ・フィールドとのシナジーが強いゲーム・フィールドにおいては、ディースリーグループを中核に、ゲーム分野での収益拡大はもとより、パチンコ・パチスロ分野の新たなるコンテンツ獲得・創出に向けてグローバルに事業展開しています。とくに前期においては、同社初となるオリジナルコンテンツ「darkSector」を全世界に向けて発売するなど、現在、コンテンツのマルチユース展開及びグローバル展開を強力に推し進めています。

当第1四半期においては、海外大手メーカーから発売された競合タイトルの影響を受けて「darkSector」の当第1四半期販売が伸び悩み、プライス・プロテクション（注）の実施見込み額を計上いたしましたが、ＰＳ・フィールドの主力タイトルである「CR新世紀エヴァンゲリオン～使徒、再び～」のフルプライスゲームソフト販売が好調だったほか、海外での「NARUTO」シリーズや「BEN 10 ～PROTECTER OF EARTH～」の販売も好調に推移しました。

以上の結果、ゲーム・フィールドの売上高は1,904百万円、営業損失は1,112百万円となりました。

（注）プライス・プロテクション：小売価格の値下げ実施による販売支援費用として売上高より控除して計上しています。

③ スポーツ・フィールド

国内外にコンテンツが豊富なスポーツ・フィールドにおいては、ジャパン・スポーツ・マーケティングを中核に、グローバルなコンテンツの獲得に向け、ライツ事業、アスリートマネジメント事業、ソリューション事業に投資し、スポーツ分野でのBtoC及びBtoBビジネスを二本柱とした戦略のもと積極的な事業展開をしています。中でもアスリートマネジメント事業においては、アスリート（選手）自体が非常に重要なコンテンツであり、グループ各社における様々なビジネスとのシナジーが期待されるため、その拡大に向けた取り組みを現在強化しています。

当第1四半期においては、ライツ事業では各種スポンサーセールスが堅調に推移し、アスリートマネジメント事業も契約アスリートの活躍等により順調に推移しました。また、ソリューション事業の中核である「トータル・ワークアウト」は、地方都市展開への施策として同ブランドの4店舗目となる福岡店を４月にオープンさせ、会員数の拡大等を図りました。

以上の結果、スポーツ・フィールドの売上高は961百万円、営業損失は169百万円となりました。

④ 映像・フィールド

パチンコ・パチスロ遊技機において映像コンテンツを活用した商品化を目指し、かねてより他の分野に先んじて投資を行ってきている映像・フィールドにおいては、当社グループ全体の一次コンテンツ創出を牽引するために、映画及びコンテンツファンド等への投資を引き続き積極的に行っています。とくに今般発売予定のパチンコ遊技機「CR七人の侍」は、こうした映像分野でのノウハウ等をシナジーとして発揮した作品として、これまでにない新しいエンタテインメントを創出しました。

当第1四半期においては、映画制作として投資した2作品が公開されました。

なお、ハルキ・フィールズシネマファンドを通じて投資した6月公開の映画「神様のパズル」は、興行成績が低調だったため出資金の費用化を実施しました。

以上の結果、映像・フィールドの売上高は26百万円、営業損失は488百万円となりました。

⑤ その他・フィールド

新しいメディアとして存在意義を高めているモバイル分野においては、ＰＳ・フィールドとのシナジーを発揮するパチンコファンの掘り起こしに向けたコンテンツの提供に加えて、様々なコンテンツを充実させることでモバイル分野での新ビジネス創出に向けた取り組みを展開しています。また、全体の一次コンテンツ創出を牽引するために、アニメーション分野への投資も積極的に行っています。

当第1四半期においては、フューチャースコープが運営するエンタテインメント情報の総合モバイルサイト「フィールズモバイル」で、有料会員数が38万人を超えるなど順調に推移しています。その他の携帯コンテンツにおいても、6月より新たなサービスを開始しました。また、アニメーションの企画・制作・プロデュースを手掛けるルーセント・ピクチャーズエンタテインメントが、平成22年3月期での収益化を目指し、映画・ビデオ・TVなどクロスメディア展開に向けたアニメーション映像の企画・開発に本格的に着手しました。

以上の結果、その他・フィールドの売上高は394百万円、営業利益は65百万円となりました。

（注）各セグメントの売上高には、内部売上高又は振替高を含んでいます。

2.　連結財政状態に関する定性的情報

(1) 資産、負債及び純資産の状況

（資産の部）

流動資産は、30,038百万円と前期末比9,520百万円の減少となりました。これは主に売上債権の減少、現金及び預金の減少によるものです。

有形固定資産は、11,833百万円と前期末比3,739百万円の増加となりました。これは主にＰＳ・フィールドの営業強化に向けた支店建設予定地の購入等によるものです。

無形固定資産は、3,908百万円と前期末比28百万円の減少となりました。

投資その他の資産は、18,492百万円と前期末比913百万円の増加となりました。これは主に投資有価証券の評価差額の増加によるものです。

以上の結果、資産の部は、64,272百万円と前期末比4,896百万円の減少となりました。

（負債の部）

流動負債は、15,200百万円と前期末比4,122百万円の減少となりました。これは主に支払手形及び買掛金の減少、短期借入金の増加並びに未払法人税等の減少によるものです。

固定負債は、5,680百万円と前期末比2,166百万円の増加となりました。これは主に社債の増加によるものです。

以上の結果、負債の部は、20,881百万円と前期末比1,955百万円の減少となりました。

（純資産の部）

純資産の部は、43,391百万円と前期末比2,940百万円の減少となりました。これは主に利益剰余金の減少によるものです。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第1四半期連結累計期間（以下、当第1四半期）における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は、前期末に比べ3,355百万円減少し、当第1四半期末には9,338百万円となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第1四半期における営業活動によるキャッシュ・フローは、売上債権が減少したものの仕入債務の減少、法人税等の支払などにより、3,730百万円の資金の減少となりました。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当第1四半期における投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得による支出などにより4,846百万円の資金の減少となりました。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当第1四半期における財務活動によるキャッシュ・フローは、短期借入金の増加、社債の発行による収入などにより、5,093百万円の資金の増加となりました。

3.　連結業績予想に関する定性的情報

平成20年5月14日に開示いたしました当期業績予想に対し、当社及びグループ各社とも概ね想定通りに推移しており、第2四半期連結累計期間及び通期の業績予想に変更はありません。

当社グループは、当期より、10年後のあるべき姿の実現と持続的成長を目指した5ヵ年の中期経営計画をスタートさせました。

この中期経営計画においては、「パチンコ市場の拡大・健全化に寄与する商品の提供」及び「優良コンテンツの発掘・育成・活性」を成長基本方針として、現在、各分野で戦略的かつ積極的な事業展開を推進しています。

既に第2四半期においては、パチンコ・パチスロ遊技機販売事業において、新機軸タイトルのパチンコ遊技機「CR七人の侍」及び大型人気タイトルのパチスロ遊技機「新世紀エヴァンゲリオン～約束の時～」の発売を予定しています。

新機軸タイトルの第一弾となる「CR七人の侍」は、新たな映像エンタテインメントの創出を目指し、黒澤明監督の不朽の名作映画「七人の侍」をパチンコのためだけに完全オールロケにて撮り下ろすという史上初の試みにより実現したパチンコ遊技機です。本機は、パチンコファンのみならず、全く新しいエンタテインメントを期待する幅広い層の方々にお楽しみ頂けるように企画・開発された商品であり、8月の納品に向け受注を開始し、市場より高い評価を頂いています。

同じく第2四半期のパチスロ遊技機販売においては、新世紀エヴァンゲリオンシリーズのパチスロ遊技機最新作である「新世紀エヴァンゲリオン～約束の時～」を9月納品に向けて営業を開始しています。前作「新世紀エヴァンゲリオン～まごころを、君に～」（平成19年7月発売、累計約10万台販売）は、多くのファンを魅了し、パチンコホールの長期稼働に寄与するなど実績があり、最新作の「～約束の時～」は既に市場の皆様から大きな反応を頂いています。

一方、第2四半期に投入予定であった「CRバーチャファイター」は、メーカーより液晶不具合の報告があり発売を延期しましたが、急遽「CRAモーニング娘。」を追加投入すると同時に、同商品を第3四半期以降に投入すべく調整を行っています。

また、グループ各社においては、第3四半期以降に主軸を置いた計画となっており、グループシナジーを高めながら各社の収益化を図っていきます。

4.　その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

①　一般債権の貸倒見積高の算定方法

当第1四半期連結会計期間末の貸倒実績率等が前連結会計年度末に算定したものと著しい変化がないと認められるため、前連結会計年度末の貸倒実績率等を使用して貸倒見積高を算定しております。

②　棚卸資産の評価方法

当第1四半期連結会計期間末の棚卸高の算出に関しては、実地棚卸を省略し、前連結会計年度末の実地棚卸高を基礎として合理的な方法により算定する方法によっております。

また、棚卸資産の簿価切下げに関しては、収益性の低下が明らかなものについてのみ正味売却価額を見積り、簿価切下げを行う方法によっております。

③　法人税等並びに繰延税金資産及び繰延税金負債の算定方法

法人税等の納付税額の算定に関しては、加味する加減算項目や税額控除項目を重要なものに限定する方法によっております。

繰延税金資産の回収可能性の判断に関しては、前連結会計年度末以降に経営環境等、かつ、一時差異等の発生状況に著しい変化がないと認められるので、前連結会計年度において使用した将来の業績予測やタックス・プランニングを利用する方法によっております。

④　税金費用の計算

当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

①「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準委員会　平成19年3月14日　企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準委員会　平成19年3月14日　企業会計基準適用指針第14号)を当第1四半期連結会計期間から適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

②　棚卸資産の評価に関する会計基準の適用

「棚卸資産の評価に関する会計基準」(企業会計基準委員会　平成18年7月5日　企業会計基準第9号)を当第1四半期連結会計期間から適用し、評価基準については、原価法から原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)に変更しております。これによる損益に与える影響はありません。

③　連結財務諸表作成における在外子会社の会計処理に関する当面の取扱いの適用

「連結財務諸表作成における在外子会社の会計処理に関する当面の取扱い」(企業会計基準委員会　平成18年5月17日　実務対応報告第18号)を当第1四半期連結会計期間から適用し、連結決算上必要な修正を行っております。これによる損益に与える影響はありません。

④　リース取引に関する会計基準等の適用

「リース取引に関する会計基準」（企業会計基準委員会　平成5年6月17日　最終改正平成19年3月30日　企業会計基準第13号）及び「リース取引に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準委員会　平成6年1月18日　最終改正平成19年3月30日　企業会計基準適用指針第16号）を当第1四半期連結会計期間から早期に適用し、所有権移転外ファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理から通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理に変更し、リース資産として計上しております。

また、リース資産の減価償却の方法は、リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとして算定する方法によっております。

なお、リース取引開始日が適用初年度開始前の所有権移転外ファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を引き続き採用しております。これによる損益に与える影響はありません。

5.　四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

（単位：百万円）

	当第1四半期連結会計期間末 （平成20年６月30日）	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 （平成20年３月31日）
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	9,495	12,841
受取手形及び売掛金	5,713	12,354
たな卸資産	4,048	4,013
その他	10,843	10,442
貸倒引当金	△62	△92
流動資産合計	30,038	39,559
固定資産		
有形固定資産	11,833	8,093
無形固定資産		
のれん	1,060	1,057
その他	2,848	2,880
無形固定資産合計	3,908	3,937
投資その他の資産		
投資有価証券	14,369	13,212
その他	4,462	4,721
貸倒引当金	△339	△355
投資その他の資産合計	18,492	17,578
固定資産合計	34,234	29,609
資産合計	64,272	69,168
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,910	5,954
短期借入金	6,497	3,398
1年内償還予定の社債	720	120
1年内返済予定の長期借入金	800	804
未払法人税等	244	3,743
賞与引当金	18	174
役員賞与引当金	62	128
受注損失引当金	41	49
その他	4,904	4,948
流動負債合計	15,200	19,322
固定負債		
社債	2,650	250
長期借入金	234	434
退職給付引当金	217	211
その他	2,578	2,618
固定負債合計	5,680	3,514
負債合計	20,881	22,836

（単位：百万円）

	当第1四半期連結会計期間末 （平成20年６月30日）	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 （平成20年３月31日）
純資産の部		
株主資本		
資本金	7,948	7,948
資本剰余金	7,994	7,994
利益剰余金	25,695	28,852
株主資本合計	41,638	44,795
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	334	△249
為替換算調整勘定	△41	△59
評価・換算差額等合計	292	△309
新株予約権	53	43
少数株主持分	1,406	1,802
純資産合計	43,391	46,331
負債純資産合計	64,272	69,168

(2) 四半期連結損益計算書

（単位：百万円）

	当第1四半期連結累計期間 （自 平成20年４月１日 至 平成20年６月30日）
売上高	7,321
売上原価	5,206
売上総利益	2,114
販売費及び一般管理費	5,426
営業利益又は営業損失（△）	△3,312
営業外収益	
受取利息	12
受取配当金	8
為替差益	252
その他	111
営業外収益合計	384
営業外費用	
支払利息	29
社債発行費	51
持分法による投資損失	71
出資金償却	67
その他	14
営業外費用合計	234
経常利益又は経常損失（△）	△3,161
特別利益	
匿名組合投資利益	48
貸倒引当金戻入額	45
その他	0
特別利益合計	95
特別損失	
固定資産売却損	0
災害による損失	99
その他	7
特別損失合計	107
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失（△）	△3,174
法人税等	△501
少数株主利益	△383
四半期純利益又は四半期純損失（△）	△2,289

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：百万円）

	当第1四半期連結累計期間 （自 平成20年４月１日 至 平成20年６月30日）
営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失（△）	△3,174
減価償却費	418
のれん償却額	74
貸倒引当金の増減額（△は減少）	△45
賞与引当金の増減額（△は減少）	△156
役員賞与引当金の増減額（△は減少）	△65
退職給付引当金の増減額（△は減少）	6
受取利息及び受取配当金	△20
仕入割引	△21
持分法による投資損益（△は益）	71
支払利息	29
売上債権の増減額（△は増加）	7,015
たな卸資産の増減額（△は増加）	△11
商品化権前渡金の増減額（△は増加）	170
仕入債務の増減額（△は減少）	△3,965
未払消費税等の増減額（△は減少）	△369
その他	72
小計	28
利息及び配当金の受取額	31
利息の支払額	△21
法人税等の支払額	△3,768
営業活動によるキャッシュ・フロー	△3,730
投資活動によるキャッシュ・フロー	
有形固定資産の取得による支出	△4,409
無形固定資産の取得による支出	△140
投資有価証券の取得による支出	△166
出資金の払込による支出	△39
その他	△90
投資活動によるキャッシュ・フロー	△4,846
財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入金の純増減額（△は減少）	3,099
長期借入金の返済による支出	△203
社債の発行による収入	2,948
配当金の支払額	△727
少数株主への配当金の支払額	△22
その他	0
財務活動によるキャッシュ・フロー	5,093
現金及び現金同等物に係る換算差額	127
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△3,355
現金及び現金同等物の期首残高	12,693
現金及び現金同等物の四半期末残高	9,338

注記事項

当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

(4) 継続企業の前提に関する注記

当第１四半期連結累計期間(自　平成20年４月１日　至　平成20年６月30日)

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

【事業の種類別セグメント情報】

当第１四半期連結累計期間(自　平成20年４月１日　至　平成20年６月30日)

	ＰＳ・フィールド(百万円)	ゲーム・フィールド(百万円)	スポーツ・フィールド(百万円)	映像・フィールド(百万円)	その他・フィールド(百万円)	計(百万円)	消去又は全社(百万円)	連結(百万円)
売上高								
(1) 外部顧客に対する売上高	4,052	1,904	946	26	391	7,321	—	7,321
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	145	0	15	—	3	163	△ 163	—
計	4,197	1,904	961	26	394	7,485	△ 163	7,321
営業利益(又は営業損失)	△ 1,562	△ 1,112	△ 169	△ 488	65	△ 3,267	△ 44	△ 3,312

(注) １　事業の区分は商品、サービス等の類似性を考慮してＰＳ・フィールド、ゲーム・フィールド、スポーツ・フィールド、映像・フィールド、その他・フィールドの区分になっております。

２　各事業の主要な内容

(1)　ＰＳ・フィールド：遊技機の仕入販売、企画、開発かつこれに付帯する関連業務等

(2)　ゲーム・フィールド：ゲームソフト等パッケージソフトの企画開発、販売等

(3)　スポーツ・フィールド：スポーツマネジメント他

(4)　映像・フィールド：映画製作事業、デジタルコンテンツの創出、著作権等の取得

(5)　その他・フィールド：アニメーションの企画、制作及びプロデュース等

３　事業区分の変更

従来、「その他・フィールド」に含めて表示していたスポーツマネジメント、映像事業につきましては、金額的重要性が増したため、当第1四半期連結累計期間より「スポーツ・フィールド」、「映像・フィールド」と区分表示することに変更致しました。

これによるセグメントに与える影響はありません。

【所在地別セグメント情報】

当第１四半期連結累計期間(自　平成20年４月１日　至　平成20年６月30日)

	日本 (百万円)	その他の地域 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	6,523	798	7,321	—	7,321
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	233	157	391	△ 391	—
計	6,757	955	7,712	△ 391	7,321
営業利益(又は営業損失)	△ 2,347	△ 845	△ 3,193	△ 119	△ 3,312

(注) 1　国又は地域の区分は、地理的近接度によっております。
2　その他の地域に属する主な国又は地域：北米・欧州等
3　事業区分の変更
従来、全セグメントの売上高の合計に占める日本の割合が90%を超えるため、所在地別セグメント情報の記載を省略しておりましたが、当第1四半期連結累計期間よりその割合が90%未満になったため、「日本」及び「その他の地域」に区分表示することに変更致しました。

【海外売上高】

当第１四半期連結累計期間(自　平成20年４月１日　至　平成20年６月30日)

	その他の地域	計
Ⅰ　海外売上高(百万円)	853	853
Ⅱ　連結売上高(百万円)	—	7,321
Ⅲ　連結売上高に占める海外売上高の割合(%)	11.7	11.7

(注) 1　国又は地域の区分は、地理的近接度によっております。
2　本邦以外のそれぞれの国又は地域における売上高は少額であるため、「その他の地域」として一括して記載しております。
3　その他の地域に属する主な国又は地域：北米・欧州等
4　海外売上高は、当社及び連結子会社の本邦以外の国又は地域における売上高であります。
5　事業区分の変更
従来、海外売上高が連結売上高の10%未満であるため、記載を省略しておりましたが、当第1四半期連結累計期間より10%以上となったことから「その他の地域」として区分表示することに変更致しました。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当第１四半期連結累計期間(自　平成20年４月１日　至　平成20年６月30日)

該当事項はありません。

6.　その他の情報

特に記載すべき事項はありません。